

【公報種別】実用新案法第14条の2の規定による訂正明細書等の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】令和2年2月20日(2020.2.20)

【登録番号】実用新案登録第3191253号(U3191253)

【訂正の登録日】令和1年11月28日(2019.11.28)

【登録公報発行日】平成26年6月12日(2014.6.12)

【出願番号】実願2014-1764(U2014-1764)

【国際特許分類】

G 0 1 N 29/24 (2006.01)

A 6 1 B 8/00 (2006.01)

H 0 4 R 17/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 29/24

A 6 1 B 8/00

H 0 4 R 17/00 3 3 0 J

【訂正書】

【提出日】令和1年11月13日(2019.11.13)

【訂正の目的】実用新案登録請求の範囲の減縮等

【訂正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

外部から入力された駆動信号に基づいて被検体へ入射させる超音波を発生する格子状に配置された複数の圧電素子、および、前記複数の圧電素子を保持するとともに可撓性を有する被覆部を少なくとも有する板状に形成された振動子と、

可撓性を有するとともに、相対的に音響インピーダンスの値が前記被検体の音響インピーダンスの値に近い材料を用いて板状に形成され、前記振動子および前記被検体の間に配置される整合部と、

可撓性を有するとともに、相対的に音響インピーダンスの値が前記振動子の音響インピーダンスの値に近い材料を用いて板状に形成され、前記整合部との間に前記振動子を挟んで配置されるダンパー部と、

が設けられ、

前記被検体に入射される超音波は、前記振動子への電圧の印加から2波を超えると、2波以内のピークと比較して、ピークが20%以内に収束することを特徴とする超音波探触子。

【請求項2】

外部から入力された駆動信号に基づいて被検体へ入射させる超音波を発生する格子状に配置された複数の圧電素子、および、前記複数の圧電素子を保持するとともに可撓性を有する被覆部を少なくとも有する板状に形成された振動子と、

可撓性を有するとともに、相対的に音響インピーダンスの値が前記被検体の音響インピーダンスの値に近い材料を用いて板状に形成され、前記振動子および前記被検体の間に配置される整合部と、

可撓性を有するとともに、相対的に音響インピーダンスの値が前記振動子の音響インピーダンスの値に近い材料を用いて板状に形成され、前記整合部との間に前記振動子を挟んで配置されるダンパー部と、

が設けられ、

前記被検体に入射される超音波は、前記振動子への電圧の印加から1.5波を超えると、1.5波以内のピークと比較して、ピークが20%以内に収束することを特徴とする超音波探触子。

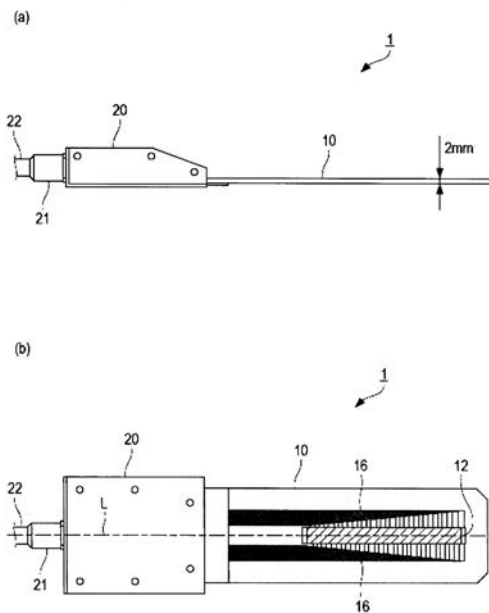
## 【請求項 3】

外部から入力された駆動信号に基づいて被検体へ入射させる超音波を発生する格子状に配置された複数の圧電素子、および、前記複数の圧電素子を保持するとともに可撓性を有する被覆部を少なくとも有する板状に形成された振動子と、

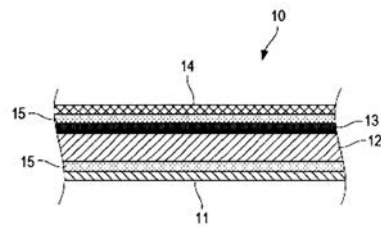
可撓性を有するとともに、相対的に音響インピーダンスの値が、前記振動子と比較して前記被検体の音響インピーダンスの値に近い材料を用いて板状に形成され、前記振動子および前記被検体の間に配置される整合部と、

可撓性を有するとともに、相対的に音響インピーダンスの値が、前記被検体と比較して前記振動子の音響インピーダンスの値に近い材料を用いて板状に形成され、前記整合部との間に前記振動子を挟んで配置されるダンパー部と、  
が設けられていることを特徴とする超音波探触子。

【図 1】

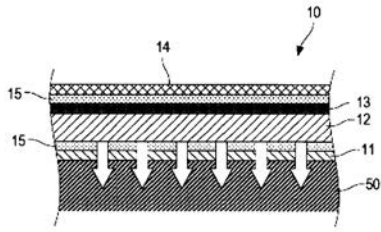


【図 2】

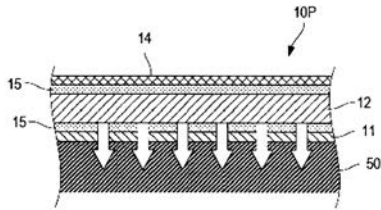


【 図 3 】

(a)

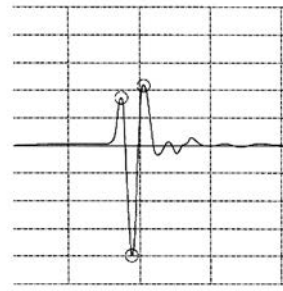


(b)

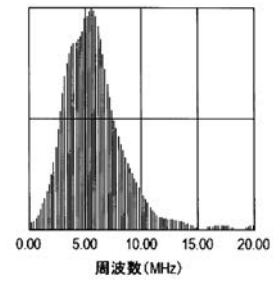


【 図 4 】

(a)

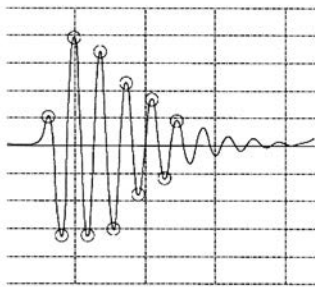


(b)

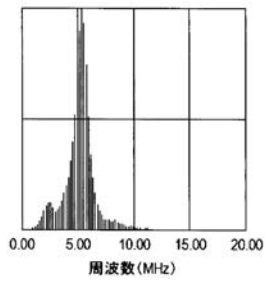


【 図 5 】

(a)

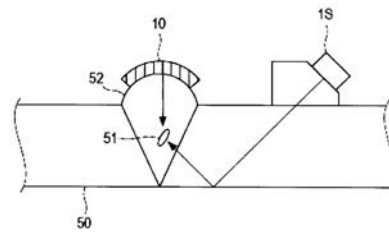


(b)

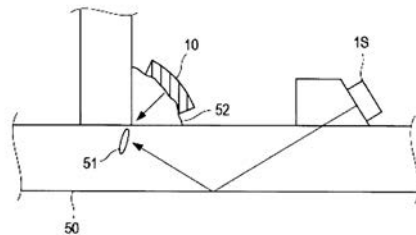


【 図 6 】

(a)

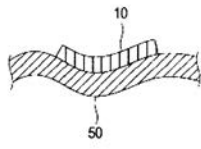


(b)

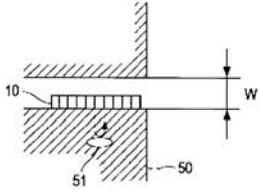


【 図 7 】

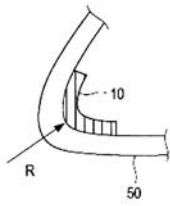
(a)



(b)

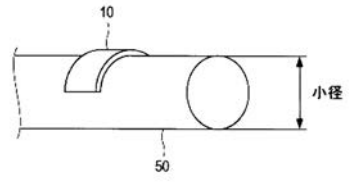


(c)



【 図 8 】

(a)



(b)

